

「台湾自然観察の旅」報告

池田淑恵（犀陵中）

1 はじめに

「第7次台湾自然観察の旅」は、初めて夏に実施されることになりました。県下各地から19名の参加者を得て、2005年8月4日（木）～8月9日（火）に実施されました。

今回は台湾中部の中央山地にある環山を中心として調査する計画でしたが、あいにく台風9号の直撃を受け、各地で土砂崩れや洪水の被害があり、通行止めにより環山へは行くことができませんでした。急遽、日程と調査地を変更しての調査となりました。急な変更と天候の変化のため、十分とは言えない部分もありましたが、ここにその概要を報告いたします。

調査にあたり、郭玉祥先生とご家族の皆様、張袖傑先生とご家族の皆様をはじめ、多くの方々のお世話をいただくことになりました。さらに、訪れることはできませんでしたが環山の小林淑子先生と環山の方々には宿泊の準備、民族舞踊などの準備をしていただくなど、私たちの研修のためにご尽力をいただきました。また、台湾自然観察の旅の実施に際しては、信州理科教育研究会から深いご理解とご支援を賜るとともに、本会誌に報告の機会をあたえていただきました。お世話になった方々、関係各位の皆様に対して深甚なる感謝の意を表します。

2 参加者

相談役・総務：倉田 稔（信州理研元会長・昆虫）
相談役・総務：佐野 昌男（信州理研元会長・鳥類）
相談役・渉外：西澤 繁幸（長野市立戸隠小・昆虫）
相談役・食事：福与 邦夫（元松川中央小・民族）
団長・総務：中田 宣彦（信州理研会長・民族）
副団長・総務：北島 信秋（長野市立豊栄小・鳥類）
秘書長・総務：坂本 邦夫（長野市立寺尾小・天文）
報告書長：宮下 健司（長野県立歴史観・民族）
食事長：吉田 保晴（伊那市立伊那西小・鳥類）
副秘書長・渉外：池田 淑恵（長野市立犀陵中・地質）

会計：田中 光枝（千曲市立東小・植物）
会計：久保 文靖（千曲市立戸倉上山田中・藻類）
報告書：西澤 繁樹（小谷村立南小谷小・民族）
宿舎荷物：中山 厚志（佐久市立中込小・植物）
宿舎荷物：伊東 誉（千曲市立治田小・水生昆虫）
食事：原 一彦（伊那市立伊那東小・鳥類）
宿舎荷物：矢口 紘史（千曲市立更埴西中・地質）
保健：久保田 学（長野市立松代中・地質）
事務局：松崎 善幸（駒ヶ根市立東伊那小・鳥類）

3 行程と日程の概略

第1日目 8月4日（木） 成田 晴れ

7：30 成田国際空港、最初のミーティング

9：50 成田発

12：21 中正国際空港着 天気 雨
名古屋発の3名と合流。

12：50 郭先生の紹介、中田団長の挨拶

13：00 空港出発

16：40 民宿 唐楼 着

16：50 部屋割り行動予定などのミーティング

17：30 夕食に出発、宜蘭へ（風雨強くなる）
夕食後、明日の行動食を各自購入。

20：40 宿舎着 各自荷物整理等をして就寝

第2日目 8月5日（金） 終日 雨

7：30 荷物の積み込み、朝食

8：10 宿舎発。台風が台湾の北部を通過。各地で水害のニュース。所々落石。給油やトイレ休憩の折に、川の様子を観察。

10：20 南山にて休憩と観察・調査

11：20 南山発

12：20 環山まで後20～30分の地点へ来る。
土砂崩れのため全面通行止め。
道路の半分以上が崩れ落ち、左側斜面から小さな土石の塊が断続的に流れている。
引き返すことを決定。



13:40 一路、台北へ向けて戻る。夜の宿舎は決まっていない。郭先生、張先生に宿舎を探していただく。

17:30 台北市に入ったところで、夕食。水餃子おいしい。

19:15 劍潭の海外青年活動中心 着

19:30 張先生の紹介、部屋割り、打合せ、今後の日程を決めるための打合せの予定確認。

20:15 各調査班責任者の打合せ会後、明日からの予定確認。各自、準備等をして就寝。

第3日目 8月6日(土) 天候は回復、晴れ

川はまだ増水しており、濁流。淡水へ観察調査(4名)、市内へ資料収集と調査(14名)

7:50 ロビーへ集合、本館へ移動。

8:10 朝食前に、今日の予定連絡。朝食。

17:00 劍潭海外青年活動中心 着

18:00 宿舎発 夕食会場へ 海鮮料理

19:40 夕食後、青果店・士林夜市などを見学。

第4日目 8月7日(日) 晴れ

全員が烏来で調査

8:00 朝食

9:00 宿舎発

9:50 烏来、観光駐車場前で鳥類・藻類班下車

10:20 福山入口検問所 着。土砂崩れのため、歩ける範囲で調査。調査班ごとの行動。

14:20 福山入口検問所 発(雨が降り始める)所々で調査している隊員を乗車させながら帰路に着く。

16:05 中華工芸館にて見学と買い物

17:35 宿舎着

18:30 夕食、食事前に調査班ごとに1分程度で調査成果について報告会。

19:40 夕食後、希望者は市街などの見学。

第5日目 8月8日(月) 晴れ

民族班から2名は烏来で、その他の班は陽明山で調査。

8:00 朝食。陽明山へは朝食後バスで移動。

9:45 調査班ごとに陽明山(大屯山)入口駐車場を出発し、調査に向かう。

13:00 駐車場に集合、バス乗車。

14:40 宿舎着、17:00まで自由行動。

17:05 宿舎発、答礼レセプション。郭先生ご一家、張先生ご一家と台湾最後の夕食。

20:30 希望者は夜の市街・夜市などの見学。郭先生一家も同じ宿舎。部屋で交流会。

第6日目 8月9日(火) 晴れ

朝食は各自でフリー。自由行動

10:00 荷物の積み込み。劍潭海外青年活動中心の建物の前で記念撮影。

10:40 宿舎発。郭先生ご一家・張先生ご一家と昼食。

12:40 中正空港着。解団式。

14:20 中正空港発

18:50 予定よりやや遅れて成田空港着



《噴煙を上げる七星山》

4 調査内容の概要

調査は、昆虫、植物、鳥類、藻類、水生昆虫、気象、地質、民族の専門分野ごとに行われた。

(1) 昆虫

台中県和平郷勝光駐在所の入口の壁に留まっていたのがホシヒトリモドキ(長斑擬燈蛾)であった。イン

ド・マレーに分布し、インド北部、アッサムからインドシナ半島を経て、台湾、奄美群島に分布している。開張 58mm。当初目的地近くで観察できた唯一の蛾である。



《ホシヒトリモドキ》

(2) 植物

植物班にとって、調査は夏の台湾の猛暑を肌で感じる過酷なものだった。しかし、冬よりも、台北植物園や陽明山の二子坪遊憩区の池では、蓮や睡蓮など水辺の植物が良く茂り、美しい花を観察することができた。



《台北植物園内の池

手前の樹木は気根を伸ばしたガジュマロ》

(3) 鳥類

今回の調査では、15 科 31 種の野鳥を確認した。確認された種数は、これまでの調査に比べ少なかった。しかし今回は、鳥たちの繁殖期に当たる夏季の調査を初めて行うことができた。その結果、スズメやクロヒヨドリの繁殖行動の一端を垣間見ること

もできた。また、かご抜けした鳥のカバイロハッカを今回初めて確認した。



《関渡自然公園の方との情報交換》

(4) 藻類

初めて夏・冬で同地点の藻類を観察したが、冬より今回の夏の方が藻類の出現数が少ないという驚く結果になった。この原因として、台湾の夏季は何度も台風が接近し、冬に7種類出現した河川から、今回は藻類が観察出来ないなど、その度に水域の藻類などは削られ流され、水中の環境がズタズタにされていることが考えられる。そして台風期の終わりとともに修復され、藻類の増加が見られるのではないだろうか。他にも気温・生活史などの要因が絡み合い、夏に種類数が減少したのではないかと考えられる。

《4つの葉緑体が
美しい緑藻類の
Crucinia tetrapedia》



(5) 水生昆虫

鳥来の南勢溪支流における調査では、カゲロウ類、カワゲラ類を中心に採取することができた。



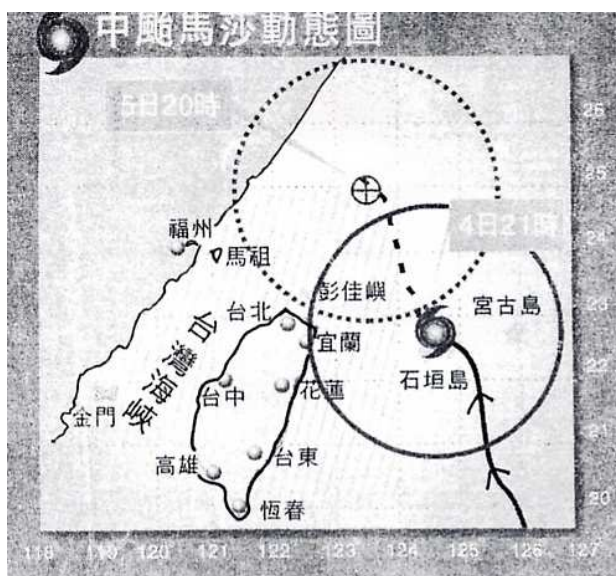
モンカワゲラの体長は、20mm前後。斑紋の特徴から区別することができるが、地域による変異があるよ

うである。南勢溪支流では、日本と比べて変異は見られなかった。足の付け根周辺に呼吸器官（鰓）が数多く出ているのが確認された。

(6) 気象

日本へ襲来しなかった台風9号の特別なおもてなしを受けた。運良く台北空港に着陸できたのは良かった。空港付近は気温28℃、湿度90%で蒸し暑かった。

当日の新聞の見出しですが、判読してほしい。『馬莎来襲北部強風豪雨』『防颱警告：縣市須依規定存糧』『竹苗中投・土石流紅色警戒』台風は、進行方向の左側の地域では恐怖で、猛烈な豪雨・洪水・土石流の為に山間道路の崩落に遭遇してしまった。



(7) 地質

中央山脈と海岸山脈の古生代後期の堆積岩類及び変成岩帯の観察を楽しみにしていたが、残念ながら台風による強雨という悪天候に阻まれ、ほとんど露頭の観察をする事はできなかった。烏来、陽明山での露頭調査・地形観察、移動途中での資料採取・地形観察を中心とした調査になった。



《粘板岩の露頭の観察をするところ》

烏来では、露頭一面が頁岩から弱い変成作用を受けて、板状にはがれやすくなった粘板岩を、陽明山では比較的大粒の黒雲母や角閃石の斑晶が特徴的な角閃石安山岩を観察できた。

(8) 民族

烏来郷のタイヤル族

首都台北を含む台北縣の南部に位置する烏来郷には2000人余のタイヤル族が生活している。ここはその伝統的な生活文化を保護するために、台湾人でも許可がないと自由に入れない「山地管制区」に指定されている。信賢村に住むタイヤル族の林金士さん（62歳）は、20年前までは焼き畑もやったが、今は山でイノシシやシカ猟をし、南勢溪で投網漁をしている。イノシシは年間5～6頭仕留め、家にはウリ坊（猪の子）の時に山で捕まえてきた雌雄2頭のイノシシを飼育していた。



《ウリ坊のときに捕まえてきたイノシシ》



《林金士さんの蕃刀とイノシシ罟》

5 おわりに

今回は台風のために計画変更を余儀なくされましたが、自然の驚異（脅威）を感じる旅になりました。来年度も続けていく予定です。初めての方も大歓迎ですので、ぜひご参加ください。